

引用文献

- Castle, N. G., Engberg, J., Anderson, R., & Men, A. (2007). Job satisfaction of nurse aides in nursing homes: Intent to leave and turnover. *The Gerontologist*, 47(2), 193-204.
- Donoghue, C., & Castle, N. G. (2009). Leadership styles of nursing home administrators and their association with staff turnover. *The Gerontologist*, 49(2), 166-174.
- Decker, F. H., Harris-Kojetin, L. D., & Bercovitz, A. (2009). Intrinsic job satisfaction, overall satisfaction, and intention to leave the job among nursing assistants in nursing homes. *The Gerontologist*, 49(5), 596-610.
- Fawcett, J. (2013). Thoughts about multidisciplinary, interdisciplinary, and transdisciplinary research. *Nursing Science Quarterly*, 26(4), 376-379.
- 福山 和女. (2009). 【ソーシャルワークにおける連携と協働の技法】 ソーシャルワークにおける協働とその技法. *ソーシャルワーク研究*, 34(4), 278-290.
- 原口 道子. (2012). これからの訪問看護サービスの創出 社会共通資本としての訪問看護の行方 多職種協働における訪問看護師の役割. *日本在宅看護学会誌*, 1(1), 13-16
- 細田満和子著 (2003) 『「チーム医療」の理念と現実－看護に生かす医療社会学からのアプローチ』. 東京：日本看護協会出版会, 第3章 「チーム医療」とは何か, p149
- 菱沼 典子. (2010). パートナリシップを具体化するために 「垣根モデル」と「餅は餅屋モデル」. *日本看護科学会誌*, 30(4), 3-5.
- 井上 千津子. (2007). 生活支援のための看護と介護の連携. *京都女子大学生生活福祉学科紀要*, 3, 1-6.
- 伊藤 幸代, 小林 厚美, 南田 喜久美. (2014). 在宅における訪問看護師とケアマネジャー、ホームヘルパー間の連携困難に関する調査. *日本看護学会論文集：地域看護*, (44), 47-50.
- 川村 和美, 孫 大輔, 中島 美津子, 内海 美保. (2015). 臨床における薬剤師のスタンスから ipw の阻害要因を考える. *薬学雑誌*, 135(1), 123-129.
- 菊地 和則. (1999). 多職種チームの3つのモデル：チーム研究のための基本的概念整理. *社会福祉学*, 39(2), 273-290.
- 厚生労働省. (2015). 平成 26 年度版高齢社会白書, 平成 25 年度高齢化の状況及び高齢社会対策の実施状況.
- http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2014/zenbun/pdf/1s1s_1.pdf.

- Lawlor, E. F., Kreuter, M. W., Sebert-Kuhlmann, A. K., & McBride, T. D. (2015). Methodological innovations in public health education: Transdisciplinary problem solving. *American Journal of Public Health*, 105 Suppl 1, S99-S103.
- 宮本 真巳. (2006). 【動き出した医療観察法】 医療観察法と多職種連携. *臨床精神医学*, 35(3), 277-285.
- 松井 妙子, 鳥海 直海, 西川 勝. (2013). 訪問看護、訪問介護、居宅介護支援事業所従事者が、在宅高齢者終末期支援を行う上で経験するコンフリクトとその対処 チーム活動に関するグループインタビューの現象学的分析から. *香川大学看護学雑誌*, 17(1), 11-24.
- 松原 みゆき. (2014). 訪問看護ステーション管理者のやりがいと困難を構成する要素. *日本赤十字広島看護大学紀要*, 14, 37-46.
- 仁科 祐子, 谷垣 静子, 乗越 千枝. (2009). 鳥取県内の訪問看護ステーションに勤務する訪問看護師の仕事に対する思い 自由記述の分析より明らかとなった肯定的思いと否定的思い. *米子医学雑誌*, 60(2), 53-65.
- 奥村 佳生, 荒井 俊行, 井上 智子, 岩井 郁子, 川合 政恵, 小池 良輔, 高瀬 浩造, 谷 直樹, 坂野 維子, 平林 明美, 山田 雅子. (2011). 第2章 看護業務 第1 看護業務の範囲. 奥村 佳生 看護業務をめぐる法律相談. PP174-183, 東京: 新日本法規出版.
- 緒形 明美, 會田 信子, 長屋 央子, 小林 尚子, 郷間 宏史, 杉浦 伸一. (2013). 介護老人福祉施設の介護職と看護職の組織コミットメントとコンフリクト対処方略および職務継続意思の関連と影響要因. *日本看護医療学会雑誌*, 15(2), 23-39.
- 大儀 律子, 萩原 桂子, 野田部 恵, 坂口 桃子. (2014). 文献にみる看護と介護の協働の実態とその背景要因. *大阪市立大学看護学雑誌*, 10, 41-49.
- 大橋 秀行. (2007). 【多職種チーム 私たちチームはどうすればうまく協力できるか】 よいチームを育てるためには 良いチームが育つ条件. *精神科臨床サービス*, 7(4), 568-575.
- 大嶋 伸雄. (2009). 【連携教育】 連携教育の実践と課題. *理学療法ジャーナル*, 43(12), 1033-1041.
- 大嶋 伸雄. (2015). 【ipe の達成とこれから 「地域で学ぶ」を中心に】 患者教育を实践する専門職連携協働のための連携教育 英国における地域医療の現場から. *看護教育*, 56(2), 136-139.

- Reeves, S. Lewin, S. Espin, S. Zwarenstein, M. (2010). Interprofessional teamwork – the basics. Reeves, S. Interprofessional Teamwork for Health and Social Care. PP10-23, UK: Wiley-Blackwell.
- 柴田 明日香[田上], 西田 真寿美, 浅井 さおり, 沼本 教子, 原 祥子, 中根 薫. (2003). 高齢者の介護施設における看護職・介護職の連携・協働に関する認識. *老年看護学*, 7(2), 116-126.
- 茂野 香おる, 八島 妙子, 酒井 郁子, 吉本 照子. (2007). 介護老人保健施設の医療的管理における看護職と介護職の役割分担と機能の実態. *千葉県立衛生短期大学紀要*, 26(1), 121-128.
- 佐藤 奈津子. (2014). ソーシャルワーカーと退院調整看護師間のコンフリクトに関する研究 退院支援担当者へのインタビュー調査から. *北星学園大学大学院論集*, (5), 1-21.
- Strauss A., Corbin, J. (1998). 質的研究の基礎 グラウンデッド・セオリーの技法と手順 第2版. 操華子, 森岡崇訳(1999). 東京: 医学書院
- 田尾雅夫 (1995) 「ヒューマン・サービスの組織—医療・保健・福祉における経営管理」. 東京: 文化社.
- 辻 彼南雄. (2005). 在宅ケアの動向とチームアプローチ 高齢者の在宅医療の現状と学際的チームアプローチ. *日本在宅ケア学会誌*, 9(1), 10-13.
- Trivedi, D., Goodman, C., Gage, H., Baron, N., Scheibl, F., Iliffe, S., . . . Drennan, V. (2013). The effectiveness of inter-professional working for older people living in the community: A systematic review. *Health & Social Care in the Community*, 21(2), 113-128.
- Weber, M. D., & Karman, T. A. (1991). Student group approach to teaching using tuckman model of group development. *The American Journal of Physiology*, 261(6 Pt 3), S12-6.
- 上村 聡子. (2010). 特別養護老人ホームの看護職と介護職の連携を阻害する要因 終末期ケアにかかわる看護職と介護職のズレを中心に. *甲南女子大学研究紀要(看護学・リハビリテーション学編)*, (4), 145-152.
- 山口 壽美枝. (2014). 診療看護師(Jnp)の現状と課題 診療看護師(jnp)として活動してよりよいチーム医療づくりとは? 機構病院の医療の向上に寄与できるか. *医療*, 68(7), 347-350